

Anchor

— アンカー —
Monthly Graphic Journal

Vol.365

2019.

8

●特別企画 地域再生—企業は人なり— ●起業家たち—その足跡を辿る ●～Anchor's Person～



表紙写真

『楽天メディカル』の事業戦略説明会に参加した「楽天」の三木谷浩史会長兼社長（中央）

巻頭特集

5Gを知る——その現状と影響

Current Topics

「コト消費」で変わる商業施設の今 / トリアージ——救急医療現場における選択

Column

先達の道標——北条政子 / 地域ブランドが導く地元の明るい未来

最先端の遺伝カウンセリングを手掛け 周産期を支えながら母子の健康を守る



母と子の まきクリニック

広島県広島市南区京橋町 2-24 ロイヤルエイト広島駅前 3 階

URL : <https://www.motherandfetusmc.com>

全国の医療現場に先駆けて、遺伝子や染色体など遺伝に関する検査に取り組んでいる『母と子の まきクリニック』。検査によって妊娠中に胎児の病気の有無がわかり、適切な治療計画によって出生後に病気の悪化を防ぐ効果が期待される。その分野のスペシャリストでもある兵頭院長に、タレントの島崎俊郎氏がお話を伺った。

院長
兵頭 麻希

interview

interviewer
島崎 俊郎



——早速ですが、兵頭院長の歩みからお聞かせ下さい。

愛媛県出身で、自然豊かな場所で育ち、幼少のころは野山を走り回っていました。小学生のころはあえて整備された道路を使わずに山を超えて学校に通っていて、そうすると色々な発見があるんですよ。新しいことを知る喜びとでも言いますか、環境のお陰で知的好奇心が醸成されていった部分もあるかもしれませんね。中学生、そして高校生になって将来を考えた時、何か人のために尽くせる職業に就きたいと考えるようになり、医療の道を目指すようになりました。

——なるほど。産婦人科を選ばれたのは何かきっかけが？

女性の私が患者として受診して、私のような医師がいてありがたいと思う診療科はどこかという目線で見た時、産婦人科がいいと思いました。学生の時にはお産のイメージが強く、赤ちゃんを取り上げるのは助産師さんの役割だという印象を持っていましたが、産婦人科をよく知ることによって考えが変わっていききましたね。全身を診ることができず、状況によっては手術もある。何よりも、女性の目線を生かすこともできるのが産婦人科だと思いました。そうして産婦人科医として経験を積む中で、私は長く遺伝に関

する検査や遺伝カウンセリングという診療を研究してきました。その分野の医療を広め向上させたいとの思いがあり、当クリニックを立ち上げた次第です。

——遺伝に関する検査、ですか。

はい。この 20 年は遺伝に関する検査や超音波検査の機器が進歩した時代で、診療できる範囲がとて広がってきました。当クリニックでは、出生前診断を行っており、妊娠 11 ～ 13 週くらいの胎児の染色体異常のリスクや全身の臓器のチェックなどを行うことが可能です。出生前に異常を発見できれば、計画的な分娩や治療を行うことも可能で、お子様の健康や命を守ることもつながります。

——たしかに先手を打てることは大きいですが、一方で出生前に伝えることで親御さんにショックを与えることにもなりませんか。

親御さんはお子さんが元気なことを望んで検査を受けますが、そこで病気が見つければ伝えることになります。ただ、赤ちゃんは本当に無限の可能性を秘めていて、適切な治療を施せば病気が悪化せずに済むことがあります。また、福祉も充実してサポートが得られるようになっていますから、そうした情報を早めに提供できるようにしています。お子さんが抱える病気に対して、どういった

治療によって将来どのように生きていくかといった、ポジティブな情報提供を行っています。

——とても意義のある医療だと思います。こうした遺伝に関する検査を行っているクリニックは多いのですか。

法律的、社会的、倫理的な問題も含んでいますから、産婦人科の中でもこの分野に積極的に取り組む医師は不足しています。だからこそ、私たちが取り組んでいく意味があると思いますし、全国の同志と協力しながら、この遺伝カウンセリングという診療を確立していければと思っています。

(2019 年 5 月取材)



「兵頭院長から遺伝カウンセリングのお話を伺い、とても理解が深まりました。出生前の診断はネガティブな要素を含むこともある印象ですが、生まれゆく命のために、現代医療ができることは多く、そこを追求する姿勢に医療の真髄を感じました」 島崎 俊郎・談